

各水試発トピックス

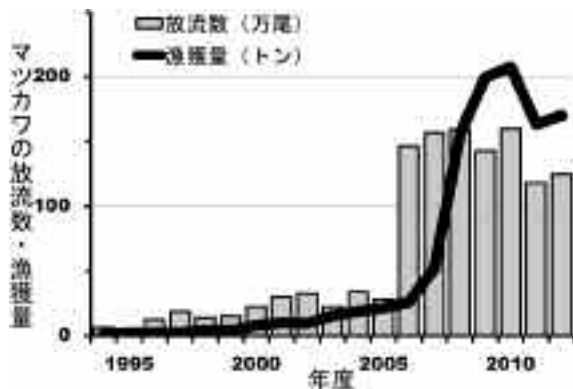
マツカワ研究チーム 北海道科学技術賞を受賞

マツカワ研究チーム（代表：萱場主査（釧路水試））が平成25年度北海道科学技術賞を受賞しました。

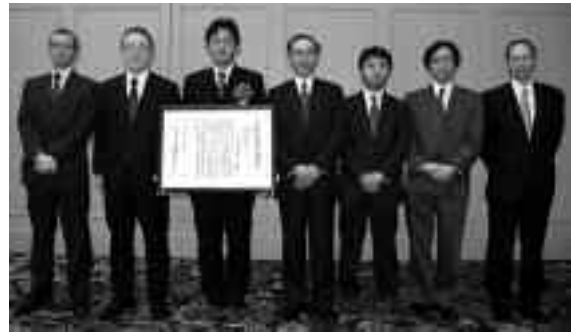
この賞は、科学技術上のすぐれた発明、研究等を行い、北海道産業の振興、道民生活の向上など経済社会の発展振興等に功績のあった個人・団体に贈呈される北海道知事表彰で、1960年の創設以来150余りの個人・団体が受賞しています。

本研究チームは、「幻の魚」と言われるほど資源が壊滅したカレイ類の一種マツカワの人工種苗生産技術の開発に1990年から取り組みはじめ、採用用の親魚すら思うように入手できない状況の中で、次々と難題を解決し、ついに大量放流の事業化により資源を復活させました。現在では毎年100万尾以上を放流することが可能となり、2008年度以降の漁獲量は150トンを超えるまでになっています（下図）。

このような栽培漁業による天然資源の急激な回復は世界的にも極めて希であり、数々の研究成果は学術分野において非常に高く評価され、これま



マツカワの放流数と漁獲量の推移(北海道～東北)



贈呈式参加者

でに複数の学会賞を受賞していました。

このたびは、これらの功績が北海道の科学技術の発展のみならず水産業の振興にも多大な貢献を果たしたと認められ、受賞に至りました。贈呈式は2月20日、札幌プリンスホテルで行われ、研究チームから代表の萱場主査をはじめ6名と推薦者の水産研究本部長が参加しました。

本研究チームは、現在、さらに研究を進め、これまで謎とされていたマツカワの産卵生態について調査しています。代表の萱場主査は「放流したマツカワが親魚となって産卵するまでの全容を解明し、資源の完全復活に向けて、これからも一歩一歩研究を進めていきたい」と今後の抱負を語っています。
(水産研究本部企画調整部)

